

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 09年9月)

～コア CPI の下落率は年末にかけて縮小へ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI の下落率は 0.1 ポイント縮小

総務省が10月30日に公表した消費者物価指数によると、9月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比▲2.3%となり、下落幅は前月から0.1ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲2.4%、当社予想も▲2.4%）を若干上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.0%（8月：同▲0.9%）、総合は前年比▲2.2%（8月：同▲2.2%）となった。

コア CPI の内訳を見ると、電気代（8月：前年比▲5.2%→9月：同▲5.9%）、ガス代（8月：前年比▲4.1%→9月：同▲5.4%）の下落幅が拡大する一方、ガソリン（8月：前年比▲31.4%→9月：同▲25.1%）、灯油（8月：前年比▲44.9%→9月：同▲41.8%）の下落幅が縮小したため、エネルギー全体では前年比▲16.3%（8月：同▲18.6%）と下落幅が縮小した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲0.5%（8月：同▲0.5%）と2ヵ月連続のマイナスとなった。それ以外では、被服及び履物の下落幅が拡大した（8月：前年比▲0.6%→9月：同▲1.2%）。売上不振に対応した値下げが行われていることを反映したものと考えられる。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲1.52%（8月は▲1.78%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.11%（8月は

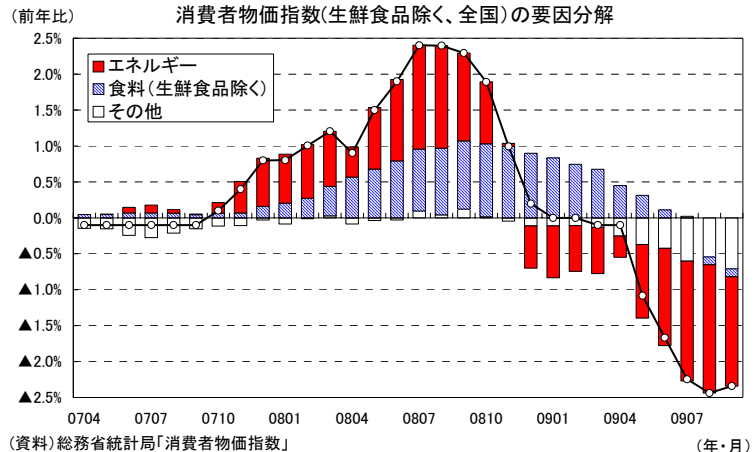
消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
08年 4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	2.1	2.4	0.0	1.3	1.5	0.2
9月	2.1	2.3	0.2	1.4	1.7	0.5
10月	1.7	1.9	0.2	1.2	1.5	0.4
11月	1.0	1.0	0.0	1.1	1.1	0.2
12月	0.4	0.2	0.0	0.8	0.8	0.2
09年 1月	0.0	0.0	▲0.2	0.5	0.5	▲0.3
2月	▲0.1	0.0	▲0.1	0.5	0.6	▲0.1
3月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	0.2	0.4	▲0.4
4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	—	—	—	▲2.4	▲2.2	▲1.4

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

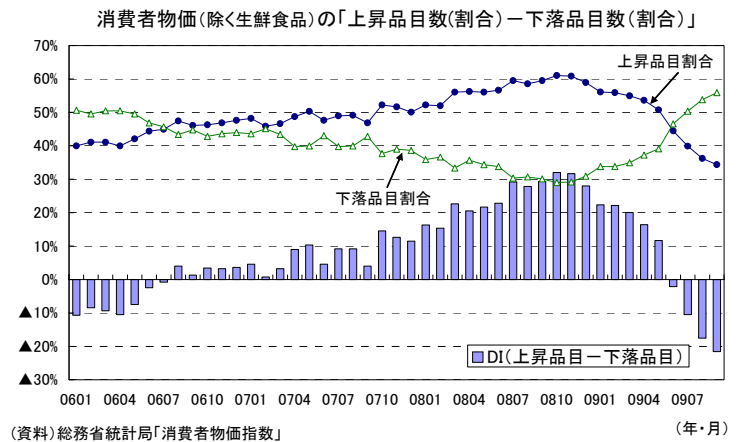
消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



▲0.11%)、その他が▲0.71%（8月は▲0.54%）であった。

2. 物価下落品目数がさらに増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、9月の上昇品目数は 180 品目（8月は 190 品目）、上昇品目数の割合は 34.4% となり、前月の 36.3% から低下した。下落品目数は 293 品目（8月は 282 品目）で、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲21.6% となり、前月の▲17.6% からマイナス幅が拡大した。この数値が 20% を超えるマイナスとなったのは 04 年 5 月以来となる。物価下落の動きがより広範化していることを示したものと云えよう。



3. コア CPI は年末にかけて下落幅縮小の公算

10月の東京都区部のコア CPI は前年比▲2.2% となり、下落幅は前月から 0.1 ポイント拡大した。事前の市場予想（ロイター集計：▲2.1%、当社予想も▲2.1%）を若干下回る結果であった。

ガス代（9月：前年比▲8.2%→10月：同▲10.9%）は下落幅が拡大したが、電気代（9月：前年比▲10.5%→10月：同▲10.2%）、ガソリン（9月：前年比▲24.5%→10月：同▲19.1%）、灯油（9月：前年比▲40.8%→10月：同▲36.3%）の下落幅が縮小したため、エネルギー全体では前年比▲12.7%（9月：同▲13.4%）と下落幅が若干縮小した。食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.8% となり、前月の同▲1.3% から下落幅が拡大した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.76%（9月は▲0.81%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.40%（9月は▲0.27%）、その他が▲1.00%（9月は▲0.98%）であった。

10月の東京都区部の結果から考えると、10月の全国コア CPI の下落率は今月と同じ 2.3% となることが予想される。ガソリン価格は前年比で二桁の下落が続いているが、下落幅は縮小傾向にあり、12月には前年比でプラスに転じる公算が大きい。また、これまで料金引き下げが続いていた電気代、ガス代も原油価格の上昇に伴い値上げされている（東京電力の電気料金は 10 月以降 3 ヶ月連続、東京ガスのガス料金は 11 月以降 2 ヶ月連続で値上げ）。需給悪化に伴う物価下落圧力は当面続くものの、エネルギー価格低下の影響一巡に伴い、年末にかけてコア CPI のマイナス幅は 1% 台半ばまで縮小する可能性が高い。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。